

デジタル活用共生社会実現会議
ICT地域コミュニティ創造部会
第1回 資料

シニア情報生活アドバイザー制度と シニアネット（養成講座実施団体）について

2018年12月27日（木）

一般財団法人 ニューメディア開発協会
<http://www2.nmda.or.jp/>

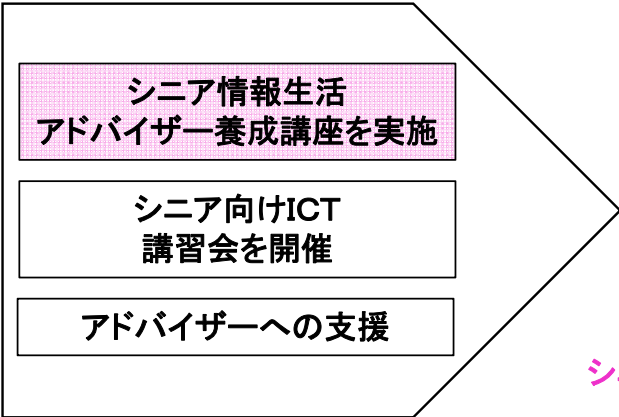
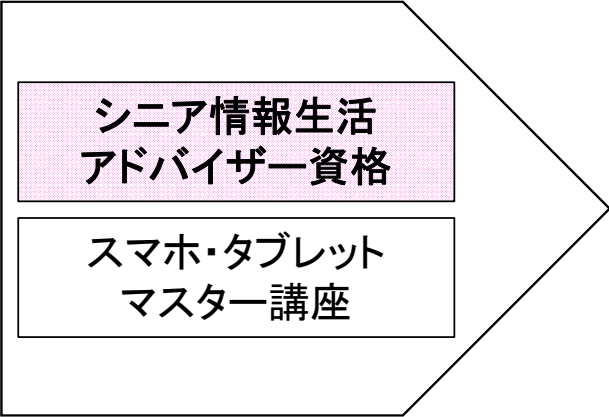
全国のシニアの方々にICT講習を実施するまでの流れ



下記の2つを柱とした制度
を全国に展開
運営：(一財)ニューメディア開発協会



養成講座を開催し、
アドバイザーをサポート
運営：全国のシニアNPO団体



(試験に合格)
シニア情報生活アドバイザー
が先生となって



シニアがシニアを教える
ICT講習会を実施

デジタル活用支援員
制度をイメージすると

コーディネーターを
支援する団体

支援員をサポートする
コーディネーター

デジタル活用支援員

高齢者等の相談者

シニア情報生活アドバイザー制度とは ～シニアがシニアを教える地域のICTリーダー・先生を養成～

シニア情報生活アドバイザー制度とは、ICTに関して、「**シニアの身近にあって優しく・楽しく、同じ質問を何度されても嫌がらず、丁寧にアドバイスできる地域におけるICT普及の担い手を育成する**」ことを目的に平成12年に設立した制度です。

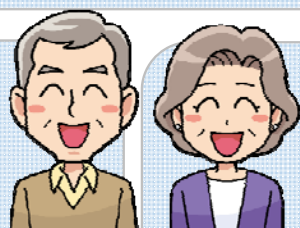
又、シニア情報生活アドバイザーは、ニューメディア開発協会が認定した全国の養成講座実施団体が行う「養成講座」を受講後、協会が実施する資格認定試験に合格し、協会から認定された方々です。



ICTの技術についての知識
パソコンやスマホ及びOS、ネットワーク等のICTに関する基本的な知識と技能



利活用の応用能力
趣味や個人の関心事に対してアプリケーションを通じて楽しく・便利なICT生活を応用・実践できる能力



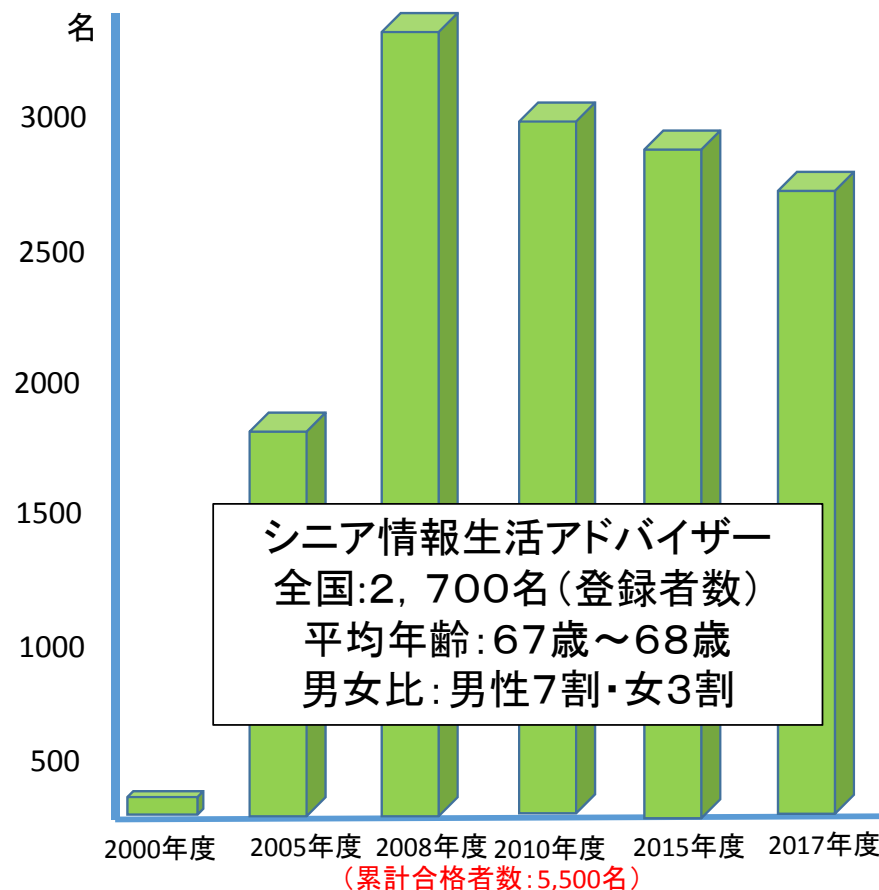
シニア情報生活アドバイザー

学習支援能力
(コミュニケーション・リテラシー)
トラブルに陥っている初心者とコミュニケーションし、問題発見、課題解決へと導く能力

地域におけるICT普及の担い手

具体的に教えていることは、

- ・パソコンやスマホ、インターネットで生活を楽しく、便利にする方法を趣味に役立てる方法
- を社会参加ために役立てる方法



シニア情報生活アドバイザー資格取得の方法他

1. 養成講座の受講資格(自己申告)

- ・概ね50歳以上であること
- ・パソコンを利用して、電子メールの送受信を日常的に行っていること
- ・日常的にパソコンを活用していること

2. 資格取得の方法

STEP1 養成講座を受講する(3時間×8回)

ICTコミュニケーション・リテラシー

知識

教え方

応用

	講義内容
第1講義	イントロダクション
第2講義	パソコン操作の基礎
第3講義	インターネットの利用
第4講義	講義案の作成
第5講義	講師体験
第6講義	いろいろな活動のための基礎知識
第7講義	活用方法を考えよう
第8講義	発表



* 養成講座は、全国の養成講座実施団体が実施

STEP2 認定試験を受ける ①筆記試験②実技試験③プレゼンテーション(全科目の合格をもって資格認定)

3. 資格の有効期限 3年(登録の更新は、有効期限最終年度に行われるスキルアップ研修の受講により実施)

スマホ・タブレット講座をスタート(2018. 6～)

1. 目的

- (1) スマートフォン、タブレットの急速な普及に伴い“**スマホ、タブレットを教えることができる講師の不足を補うため**”、スマホ・タブレットに特化した全国一元的な教育が受講できる講座を開設。

(主な受講者)

シニア情報生活アドバイザー資格取得者

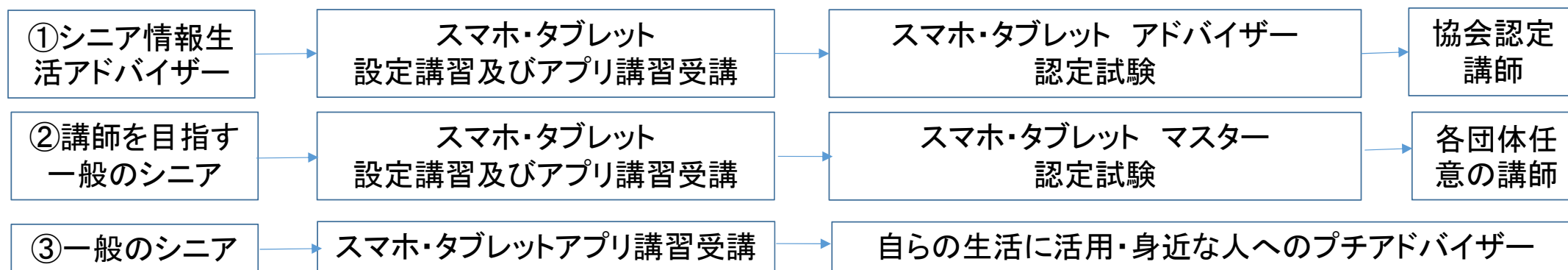
- (2) スマートフォン、タブレットを日常的に活用できることを目的とするシニアの方々が学べる環境を提供する。

(主な受講者)

スマートフォン、タブレットをお持ちの一般のシニアの方々



2. 受講目的に応じて、三つの講座体系を設定



養成講座実施団体の役割とシニアネットについて

- ・養成講座実施団体の役割は、シニア情報生活アドバイザー資格のための養成講座を開催するだけでなく、その主たる活動目的は、「**シニア情報生活アドバイザーの仕事や活躍の場を作ること**」にあります。
その活動内容は、ICT講習の開催や市町村との協働事業の推進、アドバイザーのスキル向上支援等と多岐にわたります。
- ・養成講座実施団体の**全国ネットワーク及び各団体のこと**を当協会では、**シニアネットワーク(略称:シニアネット)**と呼称し事務局(ニューメディア開発協会)が中心となって団体間の交流を深めています。

主要認定養成講座
登録団体数 160
(シニアネットワーク)

* 主にNPOとして活動

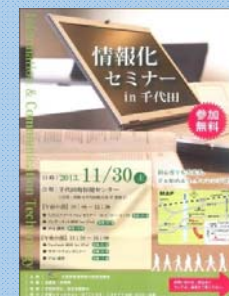
東・名・阪に集中
(約60%)

ICT講習会・イベントの開催



認知症予防タブレット講座@世田谷

市町村及び地元 企業との協働事業



情報化セミナー講師派遣@佐賀県

コーディネーターとしての 団体の地域活動

- ・養成講座の実施
- ・アドバイザーへの
各種支援



アドバイザー向けスキルアップ講習

- ・会員相互の親睦
- ・障害者団体等
との連携



会報@アビコ・シニア・ライフ・ネット

シニア向けICT講習におけるコーディネーター(シニアネット)の役割と団体共通課題

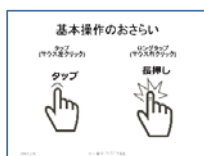
1. 開催日時及び開催地 2018年11月20日(木) 13:30-15:00(90分講習)@長野県 松本市
2. 対象者 スマホ・タブレット初心者(受講者所有の機器を持参)/当日は7名の方が参加
3. 講習内容と費用 「スマホで写真～季節の花々を撮ろう～」(Iphone編)/受講費 無料
4. 実施団体 NPO法人 信州ソフトウェア協会



準備

1. 講習内容の企画 “誰向けにどのような講習を行うか”
2. 講師の調整と謝金
3. 講習内容とテキストの作成 “シニア向けの工夫”
4. 講習会場の調整 松本市市民活動サポートセンター (wi-fiの環境あり/使用無料)
5. 受講生の募集 市民タイムス(松本の有料日刊紙)

* 無料で行うイベントに関しては掲載無料



...

実施

1. 講習用機器の設置・テキストの配布
2. 講習内容の最終確認
“何をどこまでどのように伝えるか”を 実際の会場・機器で 他の講師の方の意見も聞きながら確認
3. 講習の実施と質疑応答



フォローアップ

1. 講習直後の個別質問への対応 (その場で対応)
2. アンケートの実施
3. 講習用機器の撤去・搬出

撮影した写真を受講者で批評しあいたかった。

実習の時間をもう少し多く取って欲しかった

説明が丁寧でとても良かった。

団体が共通する課題

多くの団体理事の皆様の声
日々の悩みです

- 講習及びフォローアップ(相談)会場の確保 講習会場はやりくりしているが、生徒から日常的に相談を受け付ける場所があれば・・・。
- 効果的な広報活動 口コミや自治体広報誌などで講習会やイベントを告知し参加してもらっているが、困っている人はもっと多いはず。
- ICT利活用ニーズと講師のスキル 講習会の講師はできても、多岐にわたる質問が予想される相談員業務はベテランでないと難しい。
- 収入を得る方法の多様化 受講料のみで、団体を運営する事は難しい。自治体委託事業がなくなると、正直、厳しい💡

当協会の活動①

ニューメディア開発協会は、“シニアの方々のICT活用力をいかに高めるか”を目標にシニア情報生活アドバイザー制度の運営及びシニアネットの事務局として様々な活動を行っています。

① シニア情報生活アドバイザー制度及びスマホ・タブレット講座の運営

- **アドバイザー養成講座の企画** 新しいアプリ・サービスに対応した研修内容を企画し、毎年養成講座用テキストを更新
- **アドバイザー資格試験の実施** 全国の養成講座実施団体が準備する会場での試験の実施。認定書の付与・アドバイザー登録
- **受験希望者の問合せ対応** 受験を希望するシニアに対して、受講希望最寄りの団体の紹介や制度内容等を紹介
- **広報活動** メディアからの取材対応、リーフレット等のプロモーションツールの作成他

② シニアネット事務局としての活動

- **ポータルサイトでの情報共有** 団体の紹介・マニュアル更新等の新着情報・団体間の交流広場他
- **メールマガジンでの情報発信** トピックス(メディア掲載情報他)、スキルアップ講座(FB、LINE等のSNS系やシニアに役立つAPPを紹介)他
- **シニアネットフォーラムの開催** アドバイザーや団体運営者が年に1回、直接交流できる“場”を設定。講演会、展示会、活動表彰等実施

③ シニアのICTに関する調査・研究、自治体・民間からの委託事業

- 平成25年4月～26年6月 NTT東日本様の委託で全国17県において「タブレット講座」を累計160回開催
- 平成26年4月～27年3月 総務省様より「ICT利活用による高齢者の社会参画促進事業」を受託し、全国11自治体でタブレット講習会実施
- 平成26年4月～27年3月 総務省過疎化対策事業としての「買い物難民対策@長野県平谷村」事業を支援
- 平成29年12月～ 東京大学 先端科学技術研究センターと共同で、「超高齢社会2.0勉強会」を開催
- 平成30年4月～ 各キャリアからの依頼で、個別に店舗にてスマホ講師を開始
- 平成31年2月～ 「熊本県生涯現役促進地域連携事業」(厚労省事業)を支援予定(シニア人材マッチングシステムの教育)



- 協会運営サイト上では、トラブル対応のFAQのデータベース化までは、対応していない。
 - キャリヤ・家電メーカー等各団体に分散するFAQ情報の有効活用(まずは、製品マニュアルのDB可からでも)
- セキュリティ対策に関しては、本サイトでも、啓蒙情報や重大な事故については随時掲載しているが、限界あり。
 - シニアの方々は、セキュリティに対して非常に敏感。(特にeコマース)。IPAが日々発信している情報がシニア向けにフィルタリングされ支援員が活用できる仕組みの検討



シニアネット交流広場

トップページ

メニュー

- シニアネット・ニュース
- シニアネット・ニュース(旧版)
- 事務局からお知らせ
- スマホ・タブレットマスター養成講座
- スマホ・タブレットマスター講座説明会のお知らせ
- シニアネット震災復興支援活動
- パソコン・インターネット講座情報
- 講師やります!
- シニアネット活動事例
- 日本のシニアネット
- アドバイザー養成講座スケジュール
- シニアネットフォーラム情報
- 「シニアネット交流広場」活用の手引き
- Skypeの使い方
- タブレット端末貸出

シニアネット専用ログイン

シニアネット震災復興支援活動(準備委員会)

Welcome to シニアネット交流広場

「シニアネット交流広場」とは

日本各地で元気に活躍しているシニアネットの情報交換と共有の場としてこのサイトを設置しました。

予めこのサイトに登録したシニアネットは自らの操作でパソコン・インターネット (ICT) 講座情報やニュース、活動事例などを発信することができます。

これからシニアネットに参加して活動したいと考えている方にとっては、どのような活動が行われているか、このサイトで知る事ができます。

パソコンやインターネットの利用が苦手な方は各地のシニアネットが開催しているパソコン・インターネット講座を探す事ができます。

詳しい説明は [シニアネット交流広場操作説明書\(第3版\).pdf](#) をお読み下さい。



シニア情報生活
アドバイザー 制度

シニア情報生活アドバイザー制度 - TOP

事務局宛 E-mail

新着情報

制度のしくみ

アドバイザー養成講座

養成講座実施団体

養成講座スケジュール

アドバイザーの検索

シニアネット・フォーラム報告書

補助事業(実施団体様向け)

シニアネット交流広場

Microsoft提供コンテンツ



⊗ ようこそ、シニア情報生活アドバイザーの HP へ

高齢者がパソコンやネットワークを利用して、より楽しく、活動的な生活を送れるようになることを目指した、「シニア情報生活アドバイザー制度」のページです。

シニア情報生活アドバイザーには、高齢者がパソコンやネットワークを利用するときのリーダーとなることが期待されています。それも、パソコンやネットワークの使い方を教えるだけでなく、具体的には下記の事項を教えることが役目です。

- ・ パソコンやネットワークを趣味に役立てる方法
- ・ パソコンやネットワークで生活を楽しく便利にする方法
- ・ パソコンやネットワークを社会参加のために役立てる方法

全国の団体URLとリンク

団体名	連絡先	問い合わせ先
北海道	札幌市	札幌市
青森県	青森市	青森市
岩手県	盛岡市	盛岡市
宮城県	仙台市	仙台市
秋田県	秋田市	秋田市
山形県	山形市	山形市
福島県	福島市	福島市
茨城県	水戸市	水戸市
栃木県	宇都宮市	宇都宮市
群馬県	高崎市	高崎市
埼玉県	さいたま市	さいたま市
千葉県	千葉市	千葉市
東京都	東京都	東京都
神奈川県	横浜市	横浜市
新潟県	新潟市	新潟市
富山県	富山市	富山市
石川県	金沢市	金沢市
福井県	福井市	福井市
山梨県	山梨市	山梨市
長野県	長野市	長野市
岐阜県	岐阜市	岐阜市
静岡県	静岡市	静岡市
愛知県	名古屋市	名古屋市
岐阜県	岐阜市	岐阜市
静岡県	静岡市	静岡市
愛知県	名古屋市	名古屋市
三重県	津市	津市
滋賀県	彦根市	彦根市
京都府	京都市	京都市
大阪府	大阪市	大阪市
兵庫県	神戸市	神戸市
奈良県	奈良市	奈良市
和歌山県	和歌山市	和歌山市
鳥取県	鳥取市	鳥取市
徳島県	徳島市	徳島市
香川県	高松市	高松市
愛媛県	松山市	松山市
高知県	高知市	高知市
福岡県	福岡市	福岡市
佐賀県	佐賀市	佐賀市
大分県	大分市	大分市
熊本県	熊本市	熊本市
鹿児島県	鹿児島市	鹿児島市
沖縄県	那覇市	那覇市

アドバイザー検索(地域・団体)

地域	団体名	連絡先	問い合わせ先
北海道	札幌市	札幌市	札幌市
青森県	青森市	青森市	青森市
岩手県	盛岡市	盛岡市	盛岡市
宮城県	仙台市	仙台市	仙台市
秋田県	秋田市	秋田市	秋田市
山形県	山形市	山形市	山形市
福島県	福島市	福島市	福島市
茨城県	水戸市	水戸市	水戸市
栃木県	宇都宮市	宇都宮市	宇都宮市
群馬県	高崎市	高崎市	高崎市
埼玉県	さいたま市	さいたま市	さいたま市
千葉県	千葉市	千葉市	千葉市
東京都	東京都	東京都	東京都
神奈川県	横浜市	横浜市	横浜市
新潟県	新潟市	新潟市	新潟市
富山県	富山市	富山市	富山市
石川県	金沢市	金沢市	金沢市
福井県	福井市	福井市	福井市
山梨県	山梨市	山梨市	山梨市
長野県	長野市	長野市	長野市
岐阜県	岐阜市	岐阜市	岐阜市
静岡県	静岡市	静岡市	静岡市
愛知県	名古屋市	名古屋市	名古屋市
岐阜県	岐阜市	岐阜市	岐阜市
静岡県	静岡市	静岡市	静岡市
愛知県	名古屋市	名古屋市	名古屋市
三重県	津市	津市	津市
滋賀県	彦根市	彦根市	彦根市
京都府	京都市	京都市	京都市
大阪府	大阪市	大阪市	大阪市
兵庫県	神戸市	神戸市	神戸市
奈良県	奈良市	奈良市	奈良市
和歌山県	和歌山市	和歌山市	和歌山市
鳥取県	鳥取市	鳥取市	鳥取市
徳島県	徳島市	徳島市	徳島市
香川県	高松市	高松市	高松市
愛媛県	松山市	松山市	松山市
高知県	高知市	高知市	高知市
福岡県	福岡市	福岡市	福岡市
佐賀県	佐賀市	佐賀市	佐賀市
大分県	大分市	大分市	大分市
熊本県	熊本市	熊本市	熊本市
鹿児島県	鹿児島市	鹿児島市	鹿児島市
沖縄県	那覇市	那覇市	那覇市

詳細:スキル・活動地域・実績

活動可能地域	平井市、宗像市、武蔵野、美津町、南知多町
教えられる楽しみ方	ワード、エクセル、パソコン入門講座
活動経緯	シニア積極生活アドバイザー養成講座講師、宗将シルバーム材センターパソコン実務講座講師、南知多町パソコン講座講師など

当協会の役割③ ～超高齢社会2.0勉強会のご紹介とマッチングシステムの有効性～

1. 目的 「シニアの方々の新しい就労の仕方・社会参画のあり方を」をテーマに検討し、参加団体個々の活動や協働事業に活かすことを目的とする。
2. 開催実績 2018年12月より月1回のペースで開催(累計11回)
3. 座長 東京大学先端科学技術研究センター専任講師兼理化学研究所革新知能統合研究センターチームリーダー 檜山 敦氏
4. 参加団体 リコージャパン、KDDI、NRI社会情報システム、日本マイクロソフト、ライクホールディングス、キッズコーポレーション、CLubWillbe、自立化支援ネットワーク、SOHO普及サロン三鷹他

●勉強会のテーマの1つ“GBER (Gathering Brisk Elderly in the Region) の活用”～人工知能を活用したシニア人材マッチングシステム～

地域における仕事・ボランティア・サークル活動の“求人”と “参加を希望するシニア(スキル)”とのマッチングプラットフォーム

カレンダーUI



地域活動に参加したい
予定を発信

マップUI



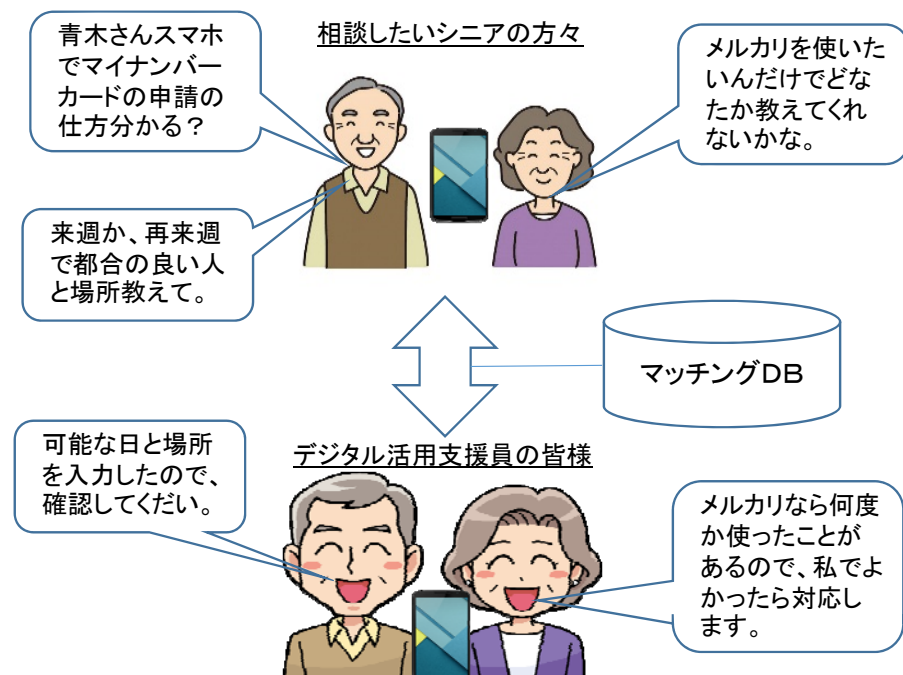
生活圏内の地域活動を検索

Q & Aカード



興味関心を手軽に入力

- ・シニアの方が、参加しやすい活動スタイルへの対応(チーム型アクティビティ)
- ・AIを活用し、一人一人のシニアの嗜好を分析し、仕事やボランティア活動をレコメンド
- ・シニアに優しいインターフェース(文字を減らし、直感的に操作が可能)



分からない時、その場で、すぐに相談できるのが理想。でも無理な時は、電話やメールで場所や日を調整するが結構、手間がかかる
→ 支援員へのサポートとして相談行為以外の工数を軽減できるしくみが必要

* GBERは、東京大学 先端科学技術研究センターが中心となって研究・開発を続けるオープンなシステムです。

「デジタル活用支援員へのサポート」他に関するご提案

サポート団体による支援員になるまでのサポート

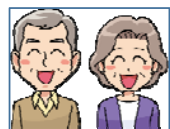
活躍する支援員へのサポート

支援員の募集

- ・ローカルメディアの活用(地元紙)
- ・自治体広報
- ・地域関連団体の協力
- ・キャリアの協力
- ・シニアネットを通じて募集
-



(有資格者)
・MOS資格取得者
・家電アドバイザー
・IPA関連資格取得者
・シニア情報生活家電アドバイザー
...



経験も資格もないけど地域に貢献したいと思う方々

(実務経験者)
・キャリアショップで勤務していたが子育てで退職した主婦
...
・人に教えた経験はないがIT知識はある元エンジニア

ICTの知識を持つ方
知識を持って教えた経験のある方
知識も経験もないけど
地域に貢献したいという志を持つ方
様々ですが
**支援員になるための入り口は
広くあるべき**

支援員養成研修

入口によってコースを設定

経験者
コース

有知識
コース

志
コース

各資格を
持ち相談
経験も
ある方は
①と②の
受講を
免除

①分野別ICT
知識研修
(PC・スマホ・情報
家電他)

②学習支援能力研修
利活用応用能力研修

③デジタル活用支援員特有の
オリエンテーション研修
例、注意義務

全国スタンダードの視点も
必要だが、
地域のシニアや障害者の方々の
ことを身近で知る
**地域の団体・シニアが研修の段階から
講師として携わる
運用が重要**

相談内容・環境のサポート

家庭訪問型相談に心理的に抵抗
感がある人には、



シニアICTサロン
(仮称)へ

- ・サポーターとなる団体の事務所を利用
- ・統廃合で空きとなった学校を利用
-

個々の相談員だけでは対応でき
ない質問がある場合には、



支援員ネットワー
クで対応

- ・支援員の候補となる団体参加による
コンソーシアム
- ・支援員交流サイト
-

今は、回答できないけど、調べる
ので次回ね、



デジタル活用支援
員ポータルサイト

- ・支援団体の活動とリンクして情報

負担軽減のためのサポート

電話やメールが頻繁に入ってくる
のはちょっと...



支援員マッチング
アプリを利用

- ①支援員はサポートできる時間・場所・空
間を登録
- ②相談者は、自分に合った支援員を検索
- ③最小限度の決め事のみメールでやりとり

最近、支援員の仕事に疲れ気味
かも...



気軽な
メンタルサポート

- ・類似業務を行っている団体のベテランと
のちょっとした会話
- ・支援員同士のオフ会
-

謝礼が目的でないけど赤字は
困るな。



シニア×ICT×
ソーシャルで
ビジネスモデル化

- ・企業のシニア向けプロモーションとの連携
- ・地域1%運動
-

【補足資料】シニア情報生活アドバイザーの方々及び各団体の活動例①

高齢者認知症予防のためのタブレット教室事業 (NPO法人 シニアSOHO世田谷 様)

本事業では、まず①タブレット講師に認知症予防ファシリテーター研修を行い、同研修を履修した講師が②高齢者に地域認知症予防プログラムに則り、iPadを使い方をやさしく教える講習会を行いました。講習会は、延べ77回実施し、208名の方に参加いただきました。(WAM社会福祉振興助成事業)

(参加者の声) 第1位は、「役立つ情報が、得られる」

- ・色々、使えそうで購入すれば、ボケ防止の生活ができそう
- ・まだ入門ですが、使用方法を覚え、世界が広がると思うと楽しみです。
- ・まったく新しい分野で頭の体操にもってこいです。
- ・毎日の生活に変化が出てくるかもかもしれません。
- ・若い人たちと交流ができれば、楽しいなと思いました(息子、孫)
- ・友達ができた。
- ・パソコンより便利だと感じた。
- ・Siriですると楽だと分かった。

参加者で最も多かったのは70代の女性、ついで60代の女性三番目にやっと70代の男性。80代になると極端に減少(最高齢は98歳の方)



携帯電話、スマートフォン講座・地域団体向けICT支援事業他 (NPO法人 まちづくりねっと・うじ 様)

・携帯電話、スマートフォン講座

宇治市福祉サービス公社や宇治市社会福祉協議会などからの委託を受け、携帯電話講座、スマートフォン講座、FaceBook講座などを随時実施しています。「やさしく、楽しく、簡単に」を心がけ受講していただくとともに職員の皆様のスキルアップにも役立てていただいています。又、東宇治コミュニティセンター主催パソコンよろず相談会にスタッフを毎回約10名派遣しています。午前10時から午後3時まで何時にきても対応できるようスタッフが待機しています。相談は、無料。利用者の皆さんは毎回相談会を心待ちにしています。

・団体向けICT支援事業

地域で関わりのある各種団体には、多数のパソコンやネットワーク機器があるにも関わらず、必ずしもICTにたけた選任職員がいるわけではなく、操作や障害時の対応に困っているところが多数あります。そのような団体とICT支援委託契約を結びICT機器の設備台帳を作成し、各種サポートを行っています。

・認知症講座のインターネットライブ中継の技術支援



自治体関連団体との協働～佐賀県～ (シニア情報生活アドバイザー佐賀 様)

佐賀県の「情報化団体づくり支援事業」

支援事業を使って講習会を開催時にアドバイザー3名派遣、謝金、旅費、会場費、チラシ印刷費等を県が負担。(年に3～5回)

佐賀県まなび課

市町や公民館へのICT推進の為の講習会開催への提言・広報の協力をして頂きました

佐賀県高度情報化推進協議会

ICT情報化セミナーの講師・サポーターの依頼に協力しました。事業計画に対し事業運営の資金の助成を頂きました。

佐賀県長寿社会振興財団

「ゆめ佐賀大学」関係の講習会、研修会等で協力頂きました。

佐賀市教育委員会

市町や公民館へのICT推進の為の講習会開催への提言・広報の協力をして頂きました。



佐賀県神埼市千代田町

障がいのある方々への支援 (パソボラネット西條 様)

障がい者の方を対象に訪問支援実施

・視覚に障がいのある方の支援

視覚に障がいのある方にとってデジ図書(Digital Accessible Information System)は、大切な読書の手段です。以前は、デジ図書のCDを郵送してもらっていましたが、しかし、パソボラネット西条の支援で、デジ図書のダウンロード、CDへの焼き付けが自力できるようになりました。



・上肢に障がいのある方の支援

らくらくマウスとキーガードを使って、パソコンを楽しんでいます。パソコンが堪能で、1度聞いたことをすぐ理解し覚える方です。ペイントを使って、2か月もかけて、素晴らしい作品を作り、それを年賀状にしたり、印刷して額に入れたりしています。



【補足資料】シニア情報生活アドバイザーの方々及び各団体の活動例②

過疎地でのタブレット利用促進～長野県平谷村～ (NPO法人 信州ソフトウェア協会様)

総務省 過疎地域等自立活性化推進事業を活用した
タブレットによる生活機能確保する事業の展開

買物支援

JA平谷店が閉店してから生鮮食品などを小売りする
店舗が村からなくなったため、ネット市場を開設し、
利用者にはタブレットを貸出し、ネットで注文が行える
ようにした。(運営主体:ICT推進協議会)

タブレット講習会

タブレットを村民が、利用できるように指導者向けと
一般住民向けに分けて講習会を開催。
講習会にあたっては、ビデオ教材も作成し、DVDを
希望者に配布



買物難民対策として
ネット市場を運営

パソコン教室からコミュニティービジネスへの展開 (NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹様)

「シニアベンチャー支援事業」の助成金を活用した
パソコン教室からスタートし、リタイヤシニアの知恵、技術、
人脈、経験を生かして様々なコミュニティービジネスを展開

(現在運営中の事業)

- ・講座事業(シニアによるシニアのためのパソコン講座)
- ・学校事業(三鷹市内の全小中学校のHP作成を支援)
- ・三鷹市ヘルプデスク(職員からのICTに関するQ&A)
- ・セルフキャリアドック活用支援
- ・認知症地域支援フォーラムの運営
- ・みたかなビ(観光)を運営。写真・取材はすべてシニア
- ・小中学校校庭緑化事業
- ・高齢者社会活動マッチング推進事業
- ・個人向けタブレット・サポート事業

.....



街づくり・地元産業への貢献～埼玉県北葛飾郡～ (旧NPO法人 すぎとSOHOクラブ 様)

地元企業、団体のWebサイト構築の支援

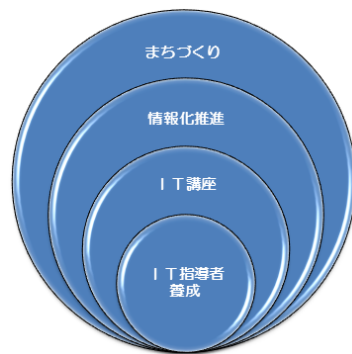
- ・埼玉県農林部/埼玉農産物ブログ「SAITAMAわっしょい！」
- ・杉戸町福祉協議会
- ・杉戸町観光協会
- ・がん患者会「シャローム」様(ブログ指導)

街づくり事業

- ・宮代町市民活動スペース運営事業(宮代町協働事業)
- ・くすのきエコDAY事業(まちづくり支援金)
- ・子育てハッピーキャノピー(埼玉県福祉部)
- ・里山再生「FURUYA村」(自主事業)
- ・イトナンボの郷づくり(自主事業)

学習支援

シニアITいきがい大学開催、すぎとITボランティアの会支援



復興ボランティア・支援活動 (シニアネット東日本大震災復興支援委員会)

複数の団体の方が発起人となり委員会を設置し、シニアネット
とアドバイザーの方へ復興に向けた支援活動の輪を広げようと
ボランティアを募集し、様々な活動を行いました。

- ・福島県飯館村「仮設住宅でのパソコン教室」(福島シニアネット)
- ・陸前高田市での「タブレット講座」開催(シニアネットアス高田)
- ・石巻市でのガレキの撤去作業 10万Kg(シニアネット今治)
- ・募金活動としてPCで作成した絵葉書を販売
(シニアSOHO横浜・神奈川)
- ・福島県福島市の福島市北幹線第一仮設住宅での「初めてのパソコン教室」を開催(福島シニアネット・仙台シニアネット)
- ・藤沢市のシニア団体が大船渡の団体へPCを寄付
(湘南藤沢シニアネット)
- ・福島県川俣町スカイプ無料講座～離れているご家族と大切な人と無料ビデオでつながる～を開催



福島市北幹線第一仮設住宅



中古品を再生して寄付

【補足資料】シニア×ICTをキーワードに様々なシーンで広がる活動

13

活動領域	地域	団体名	活動内容
産業振興	神奈川県横浜市	NPOシニアSOHO横浜・神奈川	横浜市商店街IT支援・マイナンバー制度広報を支援
就労支援	沖縄県 沖縄市	NPO沖縄ハイサイネット	中高年の就活に役立つパソコン講座・インターネット安全教室他を開催
健康	千葉県我孫子市	NPOあびこ・シニア・ライフ・ネット	認知症予防対策タブレット講座・生涯学習出前講座・のびのび親子学級他を開催
ICT教育	東京都新宿区	NPO自立化支援ネットワーク	シニアのためのスマートフォン講座・パソコンセキュリティ講座・心の悩みの進路相談他を開催
ICT教育	愛知県犬山市	NPOいぬやまeコミュニティネットワーク	子供向けプログラミング教室・愛知県障害者委託訓練・不登校児童生徒のためのキャリア教育他を開催
就労支援	大阪府大阪市	NPOおおさかシニアネット	求職者支援訓練(ビジネスパソコン講習)を実施
ICT教育	山口県光市	NPOシニアネット光	iPad活用小中学校授業支援・市民対象「ICT駆け込み寺」相談対応を実施
NPO支援	秋田県秋田市	NPO ITサポートあきた	パソコン講座を開催したいNPO団体に講師の派遣やアドバイザー資格を取るための講習を実施
ICT教育	東京都杉並区	ゆうゆうネット塾PCサロン	「地域のITリーダー」となる人材の養成を杉並区より受託し、講師を派遣
安否確認	東京都西東京市	NPOセブロス	“メル士”と呼ばれるスタッフがメールを毎日送信し、返信してもらうことで見守り・見守られのコミュニティを形成
障がい者支援	神奈川県横浜市	NPO シニアSOHO横浜・神奈川	横浜市内の中途障がい者地域活動センター(18区)にて脳血管障がいがあるため手や足が不自由な方を対象にパソコン絵画教室を開催し、リハビリをサポート
ICT教育	滋賀県湖南市	NPO湖南ネットしが	小学生を対象に「ロボット教室」を開催。レゴブロックでロボットを作り、パソコンからのプログラムでロボットを動かして楽しむ内容。
震災ボランティア	熊本県熊本市	熊本シニアネット	震災健康カフェを開催し、それぞれの震災体験を語り、「震災ボランティア」「助けをだせるネットワークづくり」をテーマにディスカッション。(詳細を「熊本シニアネットの熊本地震」としてPDF化)
過疎対策	和歌山県田辺市	NPOつれもてネット	「過疎地域に住む高齢者の孤立化防止支援事業」としてタブレット端末の活用方法、近隣の人々との「つながり」を体感できる事業を実施

ご清聴ありがとうございました

一般財団法人 ニューメディア開発協会

ご案内

ITイノベーションで
安全・安心、快適、利便性の高い
社会を実現します

New Media Development Association

協会のあゆみ

国民生活の向上、健全な福祉社会に貢献する一財団設立の趣旨

1981年、当協会の前身である(財)映像情報システム開発協会(会長 土光敏夫)の財団設立趣旨書には、「情報通信技術(当時は、ニューメディアと表現)を活用して、国民生活の向上、健全な福祉社会の建設に貢献すると共に関連事業分野の発展、ひいては技術立国を通じ我が国の国際的地位の向上に寄与するよう努力することを固く決意するものである。」と述べられています。

そして、世界に先駆けて光ファイバーを用いた双方向情報システム(Hi-OVIS)の実証を行い、地域コミュニティの形成、地域福祉社会の形成、国民の情報選択の主体性の確立等の理念実現を目指しました。

1984年に(財)ニューメディア開発協会に改組し、初代会長に故松下幸之助氏が就任後も、地域情報化の先駆けである「ニューメディア・コミュニティ構想」による情報インフラの整備、インターネット・ICカード社会を見据えたシステム開発・大規模実証実験、高齢化社会における情報通信の利活用を目的とした「メロワソサエティ構想」など先進的な活動を続けてまいりました。

ニューメディア、マルチメディア、IT、IoTと情報通信に関する概念、技術は変化してまいりますが、協会の使命としては、先人の決意を不変のものとしつつ、今後は、「情報通信技術の利活用」を中心とした活動を行ってまいります。

1972年(昭和47年)	(財)映像情報システム開発協会設立
1973年(昭和48年)	(財)生活映像情報システム開発協会を設立 旧財団法人映像情報システム開発協会と旧多摩ニュータウン生活情報システム開発協会を統合一体化(新法人設立)
1981年(昭和56年)	(財)映像情報システム開発協会設立 旧財団のうち、映像情報システム開発本部事業を継承
1984年(昭和59年)	(財)ニューメディア開発協会設立 (財)映像情報システム開発協会を改組拡充し、従来の事業にニューメディアに関する調査・研究・開発・普及啓発等の推進を加える
1987年(昭和62年)	情報化未来都市構想推進協議会(APADIC)設立
1996年(平成8年)	財団法人パーソナル情報推進協会を合併、旧財団の実施していたメロワ・ソサエティ構想推進事業を継承
2011年(平成23年)	一般財団法人に移行

情報発信

ホームページから協会の取組や事業成果をタイムリーに情報発信しています。



ホームページ
<http://www2.nmda.or.jp/>

青春とは
人生の一時期のことではなく、
心のあり方のことだ。
若くあるためには、
創造力・強い意思・情熱・勇気が必要であり、
安易に就こうとする心を叱咤する冒険への希求がなければならぬ。
人間は
年齢を重ねた時老いるのではない。
理想をなくした時老いるのである。
歳月は人間に皮膚に皺を刻むが、
情熱の消失は心に皺を作る。
悩みや疑い・不安や恐怖・失望、
これらのものこそ 若さを消滅させ、
雲ひとつない大空のような心を
だいたしにしてしまう元凶である。
六十歳になると 十六歳であろうと、
人間は、驚きへの憧憬・夜空に輝く
星座の煌めきにも似た事象や思想に対する敬愛・
何かに挑戦する心・子供のような探究心・
人生の喜びと それに対する興味を
変わらず胸に抱くことができる。
人間は信念とともに若くあり、
疑念とともに老いる。
自信とともに若くあり、
恐怖とともに老いる。
希望ある限り人間は若く、
失望とともに老いるのである。
自然や神仏や他者から、美しさや喜び、勇気や力などを、
感じ取ることができる限り、
その人は若いのだ。
感性を失い、心が皮肉に被われ、嘆きや悲しみに閉ざされる時、
人間は真に老いるのである。
そのような人は 神のあわれみを乞うしかない。

サミエル・ウルマン「青春の詩」より